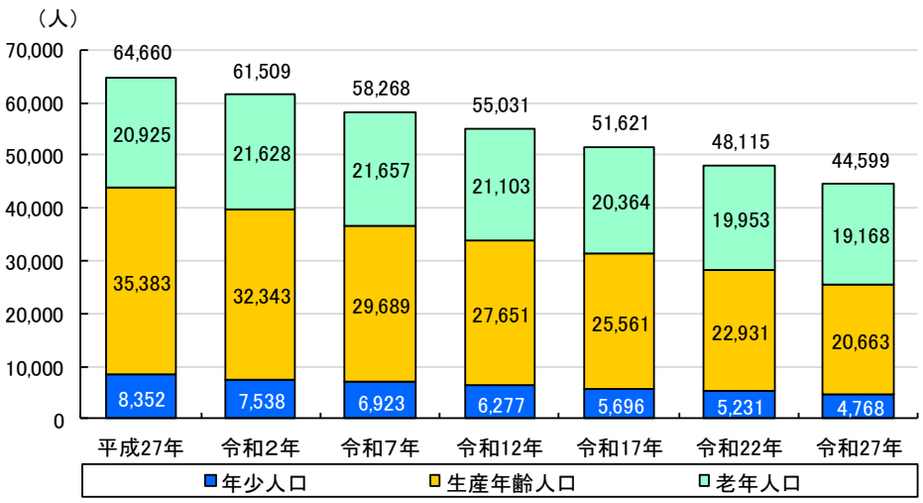
１．丹波市の現況

（１）丹波市の人口に関する現状

本市では、人口減少が進んでおり、平成 27 年の国勢調査によると市内の総人口は 64,660 人であり、平成 22 年と比較すると約 3,000 人の減少が見られます。また、平成 27 年の年齢階級別人口割合は、年少人口（０歳～14 歳）が 12.9%、生産年齢人口（15 歳～64 歳）が 54.7%、老年人口（65 歳以上）が 32.4%となっています。

本市の将来人口推計については、下記グラフの通り 30 年後には 44,599 人と、平成 27 年の人口の７割以下まで減少すると考えられています。また、年少人口については、１割以上を保つ予想になっていますが、老年人口は４割を超えると予想されています。



出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）』

人口減少が進むことによって、地域の活力も衰退していくことが予想されます。地域の活力の創出のためには様々な取組がありますが、その一つとして文化芸術活動の推進を行い、文化芸術活動を通じて地域の活力を創出し、市民や地域の活性化と市外からの交流人口の増加を狙います。

（２）丹波市の文化に関する現状

本市には、多くの史跡や文化財があります。また、文化ホールや美術館・資料館が市内に点在しており、文化的資源※についても豊富にあるといえます。しかし、それらが活用されていないケースや、情報の発信が不足しているケースが多く、今後はこれらを活かす必要があります。

また、地域内や地域間の交流が薄れており、文化芸術活動においてもその傾向が見受けられます。特に伝統行事や祭りについては、若い世代が担い手として参加することに敷居を高く感じていることが多く、それが交流を薄くしている要因の一つになっています。

今後求められることとして、豊富にある既存の文化芸術を上手く活用しながら、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の市民にとって、記憶に残るような文化芸術体験ができるまちづくりをすることが、市民や地域の活性化と交流人口の増加、そして地域の活力を創出することに繋がります。

２．施設概要

本市には数多くの史跡や文化財、文化ホール施設や美術館・資料館等の文化的資源が豊富に存在しています。今後、文化芸術の推進にあたり、これらの施設の在り方及び効果的な活用法について検討する必要があります。以下に、市内の施設について、「文化ホール施設」「生涯学習等施設」「図書館」「美術館・資料館」「史跡・文化財・公園・体験/見学施設」の５分野に分け、現存している施設を取り上げています。

※表中の「地域」については、市内を「柏原地域」「氷上地域」「青垣地域」「春日地域」「山南地域」「市島地域」の６地域に分類しています。

（１）文化ホール施設

文化ホール施設については、青垣地域と山南地域を除く４地域にそれぞれ１施設あります。席数は最も少ないもので 360 席、最も多いもので 705 席となっています。

○ 文化ホール施設

施設名	建築年	地域	仕様	管理主体
春日文化ホール	昭和 63 年	春日	多目的シューボックス型※ 席数は 630 席（一部移動観覧席）	丹波市
ライフピアいちじま大ホール	平成７年	市島	多目的シューボックス型 席数は 500 席（固定席）	
丹波の森公苑ホール	平成８年	柏原	多目的シューボックス型 席数は 705 席（固定席）	兵庫県
ポップアップホール	平成８年	氷上	多目的シューボックス型 席数は 360 席（移動観覧席）	（株）タンバンベルグ

【ライフピアいちじま大ホール】

【丹波の森公苑ホール】

（２）生涯学習等施設

生涯学習等施設については、市内に 16 施設あります。

○ 生涯学習等施設

施設名	建築年	地域	設置目的／用途	管理主体
柏原住民センター	平成 13 年	柏原	生涯学習の振興と地域づくりの推進	丹波市
氷上住民センター	昭和 53 年	氷上		
青垣住民センター	平成 17 年	青垣		
春日住民センター	昭和 51 年	春日		
山南住民センター	平成８年	山南		
ライフピアいちじま	平成７年	市島		
氷上文化センター	昭和 54 年	氷上	生活文化の向上及び福祉の増進等	
貝市会館	昭和 46 年	春日		
七日市会館	昭和 56 年			
氷上勤労青少年ホーム	昭和 49 年	氷上	青少年の健全な育成等	
大師の杜ホール	平成 10 年		スポーツ・レクリエーションの普及及び文化団体の活動等	
木の根センター	平成４年	柏原	地域福祉活動の促進及び生涯学習活動の推進	丹波市社会福祉協議会
ハートフルかすが	平成 12 年	春日		
さんなん荘	昭和 52 年	山南		
丹波の森公苑 生活創造センター	平成８年	柏原	会議・研修会・ミニコンサート・創作活動・作品展示等	兵庫県
ポップアップホール 文化教室	平成８年	氷上	文化教室・会議・研修会・セミナー等	(株)タンバンベルグ

【山南住民センター】

（３）図書館

図書館については、各地域にそれぞれ１施設あります。氷上地域には中央図書館があり、その他の地域については、住民センターに併設しています。

○ 図書館

施設名	建築年	地域	設置目的／用途	管理主体
中央図書館	平成８年	氷上	図書資料の収集、市民の教養、調査研究等	丹波市
柏原図書館（柏原住民センター）	平成 13 年	柏原		
青垣図書館（青垣住民センター）	平成 17 年	青垣		
春日図書館（春日住民センター）	昭和 51 年	春日		
山南図書館（山南住民センター）	平成８年	山南		
市島図書館（ライフピアいちじま）	平成７年	市島		

【中央図書館】

【中央図書館　館内】

（４）美術館・資料館

美術館については、「植野記念美術館」の１施設のみであり、資料館については、柏原地域・春日地域にそれぞれ２施設、氷上地域・青垣地域・市島地域にそれぞれ１施設あります。

○ 美術館・資料館

施設名	建築年	地域	設置目的／用途	管理主体
植野記念美術館	平成６年	氷上	美術に関する市民の知識及び教養の向上	丹波市
柏原歴史民俗資料館	平成元年	柏原	文化的遺産を保存、収集及び展示	
田ステ女記念館	平成９年			
水分れ資料館	昭和 63 年	氷上		
青垣歴史民俗資料館（旧朝倉家住宅）	昭和 47 年	青垣		
春日歴史民俗資料館	昭和 59 年	春日		
春日郷土資料館	昭和 52 年			
市島民俗資料館	昭和 63 年	市島		

【田ステ女記念館：館内】

【植野記念美術館】

【柏原歴史民俗資料館】

（５）史跡・文化財・公園・体験/見学施設（主なもの）

史跡・文化財・公園・体験/見学施設については、市内に数多くあります。

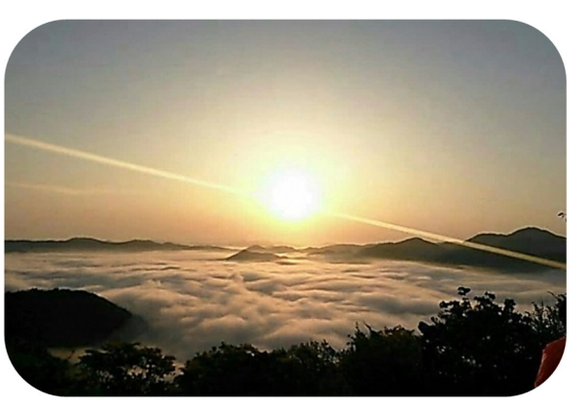
○ 史跡・文化財・公園・体験/見学施設（主なもの）

施設名	登録年/建築年	文化財種別/設置目的等	管理主体	地域
柏原藩陣屋跡・長屋門	昭和 46 年	国指定文化財（史跡）・県指定文化財	丹波市	柏原
柏原の大ケヤキ（木の根橋）	昭和 45 年	県指定文化財（天然記念物）		
太鼓やぐら	昭和 50 年	市指定文化財		
旧氷上高等小学校校舎（たんば黎明館）	平成 21 年	県指定文化財/地域の歴史文化について理解を深め利活用する	丹波市/指定管理	
丹波悠遊の森	平成６年	人と自然と文化の調和した地域づくりの推進		
旧西垣家住宅	平成 30 年	国登録文化財	個人	
織田家廟所	昭和 41 年	市指定文化財		
丹波年輪の里	昭和 63 年	文化・スポーツ・レクリエーション活動の促進	兵庫県	
柏原八幡神社	大正２年	国指定文化財	柏原八幡神社	
水分れ公園	昭和 63 年	本州一低い中央分水界・観光資源	丹波市	氷上
達身寺	明治 44 年	国指定文化財・県指定文化財	達身寺	
いそ部神社	昭和 48 年	市指定文化財	いそ部神社	
岩瀧寺渓谷	昭和 49 年	市指定文化財（名勝）	岩瀧寺	
丹波布※伝承館	平成 10 年	丹波布技術伝承、都市との交流活動	丹波市	青垣
俳人細見綾子生家	平成 29 年	細見綾子の顕彰、生家の保存		
青垣いきものふれあいの里	平成７年	自然とのふれあいの場の提供、生涯学習の推進		
丹波少年自然の家	昭和 53 年	自然の豊かさ、守ることの大切さ等を学ぶ	兵庫県/阪神丹波９市１町事務組合	
蘆田家住宅	平成 18 年	国登録文化財	個人	
常瀧寺の大イチョウ	平成 14 年	県指定文化財（天然記念物）	常瀧寺	
高源寺境内	昭和 53 年	市指定文化財（名勝）	高源寺	

施設名	登録年/建築年	文化財種別/設置目的等	管理主体	地域
黒井城跡	平成元年	国指定文化財（史跡）	丹波市	春日
日ヶ奥渓谷	昭和 44 年	市指定文化財（名勝）	多利区	
旧友井家住宅	昭和 49 年	国指定文化財	丹波市	山南
丹波竜化石工房ちーたんの館	平成 22 年	恐竜化石の保存、普及、教育活動		
旧上久下村営上滝発電所記念館	平成 20 年	国登録有形文化財としての保護・保存		
山南ふるさと文化財の森センター	平成 14 年	檜皮葺き建造物の維持・保存・継承に係る技術者の養成		
薬草薬樹公園　丹波の湯	平成 12 年	薬草をテーマとした各種体験施設	丹波市/指定管理	
慧日寺	平成 26 年	国登録文化財	慧日寺	
石龕寺	昭和 31 年	国指定文化財・県指定文化財	石龕寺	
高座神社	平成 30 年	国指定文化財	高座神社	
狭宮神社	平成 30 年	県指定文化財	狭宮神社	
岩尾城跡	平成 13 年	県指定文化財（史跡）	和田財産区他	
三ツ塚廃寺跡（三ツ塚史跡公園）	昭和 51 年	国指定文化財（史跡）	丹波市	市島
西山酒造場	平成 19 年	国登録文化財	個人	
白毫寺	昭和 45 年	県指定文化財・市指定文化財	白毫寺	

【柏原の大ケヤキ（木の根橋）】

【黒井城跡からの日の出】



３．丹波市民の文化芸術活動

本市では、様々な文化芸術活動が行われています。特に、伝統芸能や地域における文化芸術では、国や市から民俗文化財※として指定されているものもあり、文化の保存という観点からも重要な活動が数多くあります。以下に、第１章５に記した「対象となる文化芸術の範囲」の８分野ごとに分類しています。

○ 丹波市民の文化芸術活動（活動例）

分野	活動名	活動団体
芸術	たんば青春俳句祭 田ステ女俳句ラリー※	丹波市俳句協会
	丹波市音楽祭	丹波市音楽協会
	童謡唱歌の祭典	日本の童謡・唱歌をひろめる会
	定期演奏会	氷上吹奏楽団 丹波市少年少女合唱団 東小学校鼓笛隊 吉見小学校金管バンド
	街角コンサート ふるさと音楽ひろば キン・コン・カン・コンサート	シューベルティアーデたんば※実行委員会
	著名アーティスト公演 ピアノ等クラシック系コンサート 人形劇・子ども向けコンサート ミュージカル公演	丹波市
	丹波アートコンペティション※	丹波市展実行委員会
	丹波市美術作家協会展	丹波市美術作家協会 丹波彫刻会
	アート・クラフトフェスティバル※	アート・クラフトフェスティバル実行委員会
	丹波の森ウッドクラフト展※	丹波の森ウッドクラフト展実行委員会
	写真展	たんば写真クラブ 丹波写友会
	定期公演 地域での公演	劇研椎の実 人情アマチュア劇団　丹波栗 劇団水彩パルチザン
	丹波市民踊のつどい	丹波市郷土民踊保存協会
	定期公演	藤間流藤有会（日舞） 青垣バレエスクール
メディア芸術	自主上映会	丹波市

分野	活動名	活動団体
伝統芸能	丹波市謡曲・仕舞・囃子大会	丹波市謡曲同好会
	丹波能楽囃子之会	上田江月会
	定期公演 地域での公演（ワークショップ※）	甲賀流氷ノ川太鼓振興会 春日戦国太鼓 鴨庄っ子太鼓
芸能	落語会	丹波市
	丹波市文化協会総合文化祭	丹波市文化協会
	丹波文化団体交流会	丹波文化団体協議会
	アマチュアアーティスト育成支援事業※ （バンド・ピアノ・ダンス・和太鼓フェスタ）	アマチュアアーティスト育成支援事業実行委員会 オペレータークラブ ZERO-IV
	定期演奏会	日本民謡秀敦会
生活文化	丹波市茶華道大会	丹波市茶華道連盟
	新春書初め展	丹波書の会
国民娯楽	将棋道場	丹波と金会

【劇研椎の実　定期公演】

【丹波の森公苑ホール】

【このまちとともに（丹波市の歌）】

【丹波市音楽協会】

【丹波市少年少女合唱団　定期演奏会】

【春日文化ホール】

分野	活動名	活動団体
文化財等	大新屋新法師おどり（柏原・市指定無形民俗文化財）	大新屋新法師おどり保存会
	柏原おどり（柏原・市指定無形民俗文化財）	柏原おどり保存会
	南多田新発意おどり（柏原・市指定無形民俗文化財）	南多田新発意おどり保存会
	稲畑式三番叟（氷上・市指定無形民俗文化財）	稲畑式三番叟保存会
	稲畑人形※制作技術（氷上・市指定無形文化財）	稲畑人形保存会
	上新庄式三番叟（氷上・市指定無形民俗文化財）	上新庄式三番叟保存会
	佐野式三番叟（氷上・市指定無形民俗文化財）	佐野式三番叟保存会
	谷村新発意おどり（氷上・市指定無形民俗文化財）	谷村新発意おどり保存会
	中野奴行列（氷上・市指定無形民俗文化財）	中野奴行列保存会
	成松の造り物行事（氷上・市指定無形民俗文化財）	成松造り物保存会
	青垣の翁三番叟（青垣・国選択、県指定無形民俗文化財）	八幡神社祭礼保存会
	丹波布の技術保存（青垣・国選択無形文化財）	丹波布技術保存会
	熊野神社の裸祭（青垣・市指定無形民俗文化財）	熊野神社裸祭保存会
	稲塚風流神踊（春日・市指定無形民俗文化財）	稲塚風流神踊保存会
	青田大歳神社の神楽舞（山南・市指定無形民俗文化財）	青田神楽保存会
	応地の蛇ない（山南・市指定無形民俗文化財）	応地区
	常勝寺追儺式　鬼こそ（山南・市指定無形民俗文化財）	常勝寺
	檜皮葺き建造物の維持・保存・継承に係る技術等（国選定保存技術）	檜皮採取技術者
	折杉神社の粥占神事（市島・市指定無形民俗文化財）	折杉神社氏子
地域における文化芸術	織田まつり（柏原）	織田まつり実行委員会
	厄除まつり（柏原）	八幡神社
	愛宕祭（氷上）	愛宕祭実行委員会
	丹波八宿青垣の秋（青垣）	丹波八宿青垣の秋実行委員会
	黒井城まつり（春日）	黒井地区自治協議会
	石龕寺もみじ祭（山南）	石龕寺もみじ祭実行委員会
	竹田まつり（市島）	竹田祭奉賛会

【青垣の翁三番叟】

【八幡神社】

【稲畑人形のお雛祭り展】

【沼貫交流館】

４．現状把握のための基礎調査（アンケート調査等）

（１）市民意識調査等の結果

① 調査概要

調査の目的

本市では、「第２次丹波市総合計画（基本計画）」の施策目標である「地域の文化芸術を守り、育て、活かそう」の目標をさらに明確にするため、文化芸術の推進に関する具体的戦略をもった中長期的な方向性を示す「丹波市文化芸術推進基本計画」（令和２年度～令和 11 年度）の策定に際し、本市の文化や芸術について市民等の意向を把握することを目的にアンケートを実施しました。

調査の種類と概要

アンケート	調査対象	調査期間	調査方法	配布・回収数
市民	18 歳以上の市民 1,000 人	平成 30 年 11 月 25 日（日）～ 12 月 20 日（木）	郵送配布 郵送回収	配布数：1,000 回収数：396 回収率：39.6%
新成人	新成人 610 人	平成 30 年 11 月 25 日（日）～ 平成 31 年 １月 13 日（日･祝）	郵送配布 成人式で回収	配布数：610 回収数：109 回収率：17.9%
高校生	本市の高校（３校） 在校の１～３年生 1,281 人	平成 30 年 11 月 21 日（水）～ 12 月 21 日（金）	各高校での 直接配布 直接回収	配布数：1,281 回収数：1,237 回収率：96.6%
団体	本市で文化芸術活動等に取り組む団体 38 団体	平成 30 年 11 月 25 日（日）～ 12 月 20 日（木）	郵送配布 郵送回収 （一部手渡し）	配布数：38 回収数：27 回収率：71.1%
施設利用者	本市の文化芸術施設の利用者	平成 30 年 11 月 25 日（日）～ 12 月 20 日（木）	各施設での 直接配布 直接回収	13 施設で配布 回収数：106

調査結果の表示方法

集計区分ごとの集計母数は、グラフ中に「Ｎ＝＊＊＊」と表記しています。

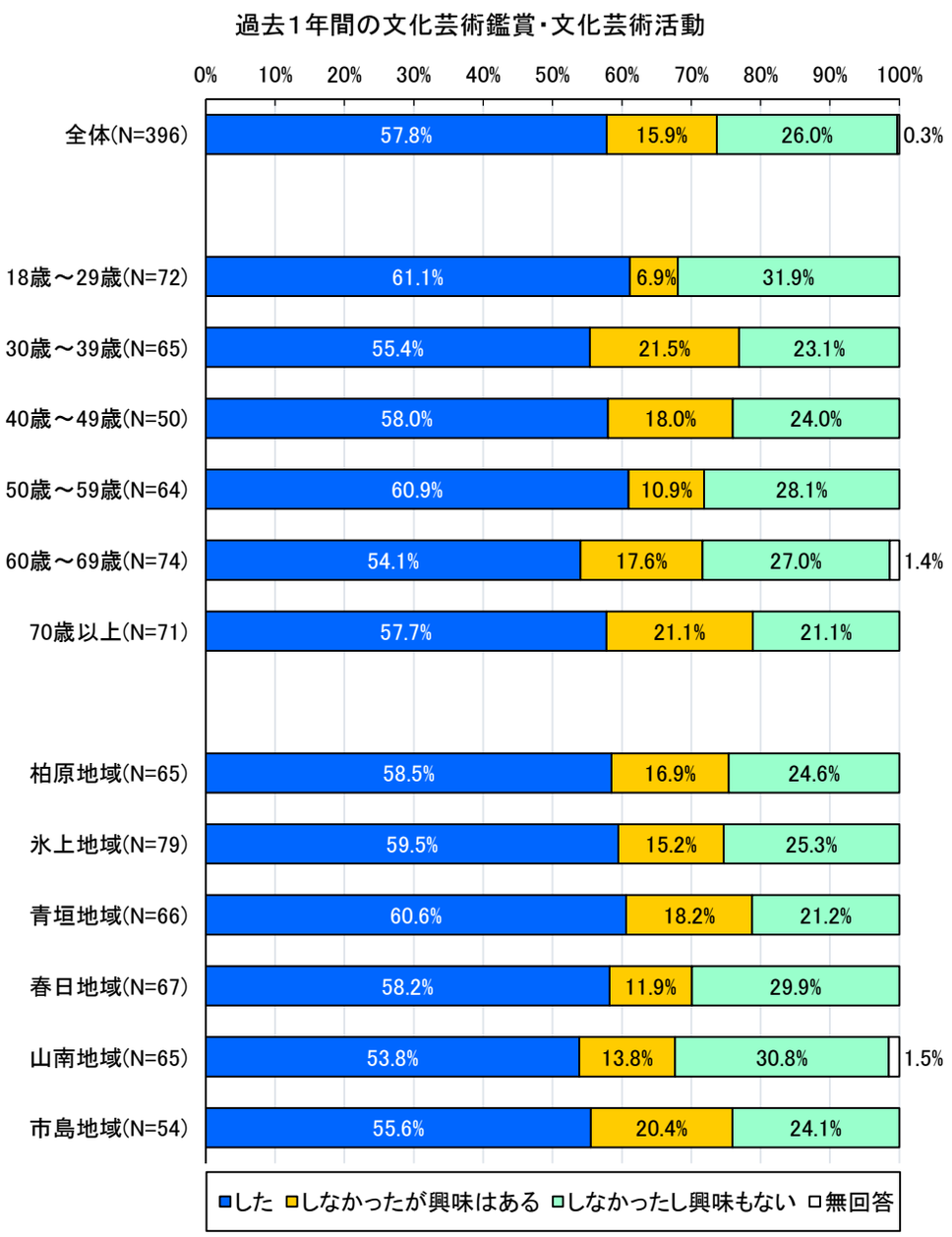
集計結果の百分率（%）は、小数点以下第２位を四捨五入した値を表記しているため、選択肢ごとの構成比の合計が 100.0%にならない場合があります。

クロス集計の表では、同一区分の中で最も多い数値を橙色・太字で表示しています。

② 調査結果

過去１年間の文化芸術鑑賞・文化芸術活動

過去１年間の文化芸術鑑賞・文化芸術活動をみると、何らかの鑑賞・活動を「した」が 57.8%、「しなかったが興味はある」が 15.9%、「しなかったし興味もない」が 26.0%となっています。



【市民アンケート　問７】

＜参考データ＞

・内閣府「国民生活に関する世論調査」（平成 21 年 11 月）

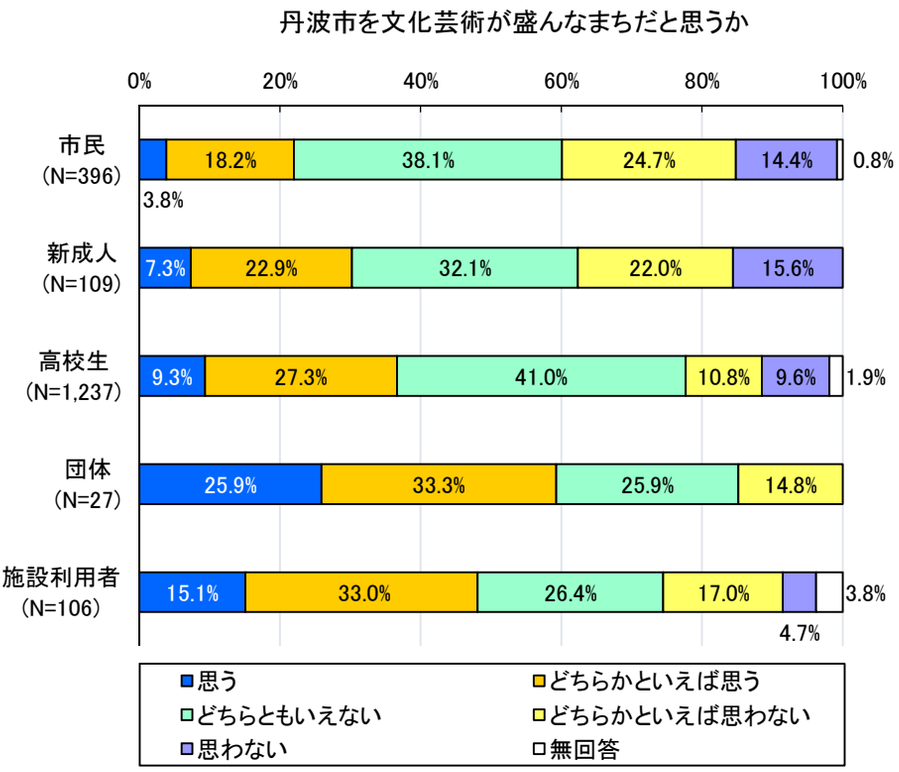
鑑賞：した（62.8%）、しなかった（37.2%）　活動：した（23.9%）、しなかった（76.1%）

・兵庫県「県民モニター第３回アンケート調査」（平成 25 年９月～10 月）

鑑賞：した（91.4%）、しなかった（8.6%）　活動：した（43.6%）、しなかった（56.4%）

丹波市を文化芸術の盛んなまちだと思うか

丹波市を文化芸術の盛んなまちだと思うかについて、「市民」「新成人」「高校生」「団体」「施設利用者」を比較すると、「団体」が 25.9%で最も多く、次いで「施設利用者」（15.1%）、「高校生」（9.3%）となっています。



【丹波市文化協会総合文化祭】

【春日文化ホール】

【市民アンケート　問 11】
【新成人アンケート　問５】
【高校生アンケート　問７】
【団体アンケート　問７】
【施設利用者アンケート　問５】

【神戸まつり～おまつりパレード～】

【丹波市郷土民踊保存協会】

文化芸術が盛んだと思わない理由

文化芸術が盛んだと思わない理由をみると、「文化的な公演やイベント等を鑑賞する機会が少ない」が54.8%で最も多く、次いで「文化芸術活動についての情報が少ない」（49.0%）、「子ども・若い世代が文化芸術に深く関わっていない」（45.2%）となっています。

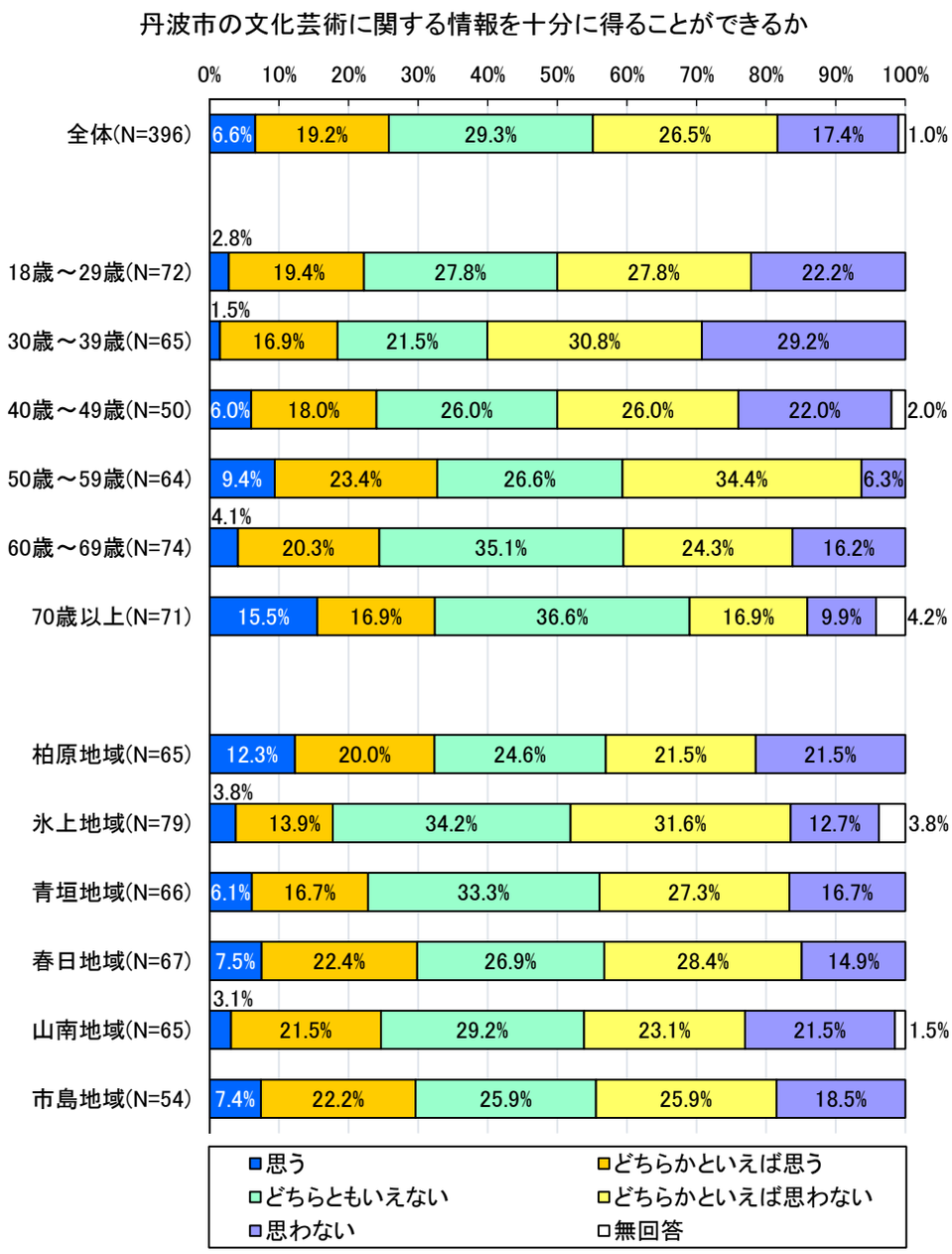
文化芸術が盛んだと思わない理由（複数回答）

		有効回答数	文化的な公演やイベント等を鑑賞する機会が少ない	市民・団体による文化芸術活動が活発でない	文化芸術活動についての情報が少ない	文化芸術活動に対して行政や民間の支援が充実していない	文化芸術活動を開催するホール・美術館等の施設が充実していない	国内外の文化芸術を通じた交流が活発でない	子ども・若い世代が文化芸術に深く関わっていない	文化財・街なみ等が保存・活用されていない	地域の伝統芸能が保存・継承されていない	その他
全体		155	54.8%	27.1%	49.0%	21.3%	24.5%	13.5%	45.2%	20.0%	12.3%	4.5%
年齢別	18 歳～29 歳	28	39.3%	17.9%	46.4%	21.4%	21.4%	14.3%	64.3%	10.7%	7.1%	3.6%
	30 歳～39 歳	29	55.2%	20.7%	48.3%	17.2%	48.3%	13.8%	51.7%	24.1%	13.8%	0.0%
	40 歳～49 歳	22	63.6%	22.7%	50.0%	9.1%	18.2%	18.2%	31.8%	22.7%	4.5%	13.6%
	50 歳～59 歳	27	51.9%	33.3%	48.1%	18.5%	29.6%	3.7%	33.3%	14.8%	18.5%	7.4%
	60 歳～69 歳	27	55.6%	33.3%	63.0%	33.3%	18.5%	14.8%	51.9%	22.2%	11.1%	0.0%
	70 歳以上	22	68.2%	36.4%	36.4%	27.3%	4.5%	18.2%	31.8%	27.3%	18.2%	4.5%
地域別	柏原地域	26	34.6%	15.4%	53.8%	15.4%	23.1%	7.7%	42.3%	15.4%	3.8%	3.8%
	氷上地域	33	60.6%	27.3%	42.4%	33.3%	27.3%	15.2%	45.5%	21.2%	12.1%	3.0%
	青垣地域	26	46.2%	34.6%	50.0%	19.2%	23.1%	19.2%	42.3%	23.1%	26.9%	11.5%
	春日地域	25	68.0%	28.0%	52.0%	4.0%	12.0%	12.0%	56.0%	16.0%	8.0%	0.0%
	山南地域	27	63.0%	25.9%	48.1%	22.2%	37.0%	7.4%	40.7%	22.2%	7.4%	7.4%
	市島地域	18	55.6%	33.3%	50.0%	33.3%	22.2%	22.2%	44.4%	22.2%	16.7%	0.0%

【市民アンケート　問 13】

丹波市の文化芸術に関する情報を十分に得ることができるか

丹波市の文化芸術に関する情報を十分に得ることができるかをみると、「どちらともいえない」が29.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば思わない」(26.5%)、「どちらかといえば思う」(19.2%)となっています。



【市民アンケート　問 14】

丹波市の文化芸術に関する情報源

丹波市の文化芸術に関する情報源をみると、「市の広報紙・防災行政無線」が 55.8%で最も多く、次いで「チラシ・ポスター」(39.4%)、「家族・友人・知人からの口コミ」「新聞・書籍・雑誌」(ともに 29.0%)となっています。また、「特に何からも得ていない」は 13.4%となっています。

丹波市の文化芸術に関する情報源(複数回答)

		有効回答数	新聞・書籍・雑誌	市の広報紙・防災行政無線	タウン誌・フリーペーパー	チラシ・ポスター	テレビ・ラジオ	地域のウェブサイト（丹波市等が発信）	全国的なウェブサイト（東京等から発信）	SNS（Facebook・LINE・ブログ等）	公共施設等の窓口	家族・友人・知人からの口コミ	その他	特に何からも得ていない
全体		396	29.0%	55.8%	6.6%	39.4%	4.8%	8.8%	0.5%	11.1%	11.1%	29.0%	0.8%	13.4%
年齢別	18 歳～29 歳	72	18.1%	29.2%	6.9%	27.8%	1.4%	2.8%	1.4%	20.8%	9.7%	31.9%	2.8%	22.2%
	30 歳～39 歳	65	15.4%	41.5%	6.2%	35.4%	9.2%	12.3%	0.0%	23.1%	4.6%	38.5%	0.0%	23.1%
	40 歳～49 歳	50	24.0%	66.0%	4.0%	38.0%	2.0%	16.0%	0.0%	18.0%	14.0%	26.0%	2.0%	18.0%
	50 歳～59 歳	64	35.9%	68.8%	15.6%	42.2%	4.7%	12.5%	0.0%	6.3%	15.6%	18.8%	0.0%	6.3%
	60 歳～69 歳	74	37.8%	64.9%	1.4%	44.6%	6.8%	6.8%	0.0%	1.4%	12.2%	31.1%	0.0%	5.4%
	70 歳以上	71	40.8%	67.6%	5.6%	47.9%	4.2%	5.6%	1.4%	0.0%	11.3%	26.8%	0.0%	7.0%
地域別	柏原地域	65	44.6%	52.3%	3.1%	47.7%	3.1%	9.2%	1.5%	4.6%	7.7%	30.8%	1.5%	10.8%
	氷上地域	79	30.4%	55.7%	6.3%	40.5%	7.6%	7.6%	0.0%	17.7%	7.6%	38.0%	0.0%	13.9%
	青垣地域	66	24.2%	53.0%	9.1%	42.4%	9.1%	10.6%	0.0%	7.6%	19.7%	28.8%	0.0%	12.1%
	春日地域	67	31.3%	61.2%	7.5%	32.8%	1.5%	7.5%	0.0%	9.0%	14.9%	19.4%	0.0%	11.9%
	山南地域	65	21.5%	63.1%	1.5%	27.7%	1.5%	13.8%	0.0%	16.9%	9.2%	29.2%	1.5%	13.8%
	市島地域	54	20.4%	48.1%	13.0%	46.3%	5.6%	3.7%	1.9%	9.3%	7.4%	25.9%	1.9%	18.5%

【市民アンケート　問 15】

大切にしたい丹波市の文化的な資源

大切にしたい丹波市の文化的な資源をみると、「伝統文化」が 56.3％で最も多く、次いで「景観」（50.8％）、「文化行事」（43.4％）となっています。また、「特に大切にしたい文化的資源はない」は 6.8％となっています。

大切にしたい丹波市の文化的な資源（複数回答）

		有効回答数	文化行事（展覧会・イベント等）	文化施設（ホール・美術館等）	人材（芸術家・文化人等）	国際交流（多文化交流イベント等）	市民・文化団体（美術・合唱・写真等）	文化財（歴史的な建物・美術工芸品等）	伝統文化（地域の祭り・行事・芸能等）	景観（自然環境・街なみ等）	その他	特に大切にしたい文化的資源はない
全体		396	43.4%	32.8%	23.7%	9.6%	18.4%	38.9%	56.3%	50.8%	1.5%	6.8%
年齢別	18 歳～29 歳	72	34.7%	30.6%	16.7%	6.9%	8.3%	31.9%	56.9%	56.9%	1.4%	8.3%
	30 歳～39 歳	65	50.8%	33.8%	35.4%	23.1%	26.2%	33.8%	61.5%	47.7%	3.1%	6.2%
	40 歳～49 歳	50	44.0%	28.0%	28.0%	4.0%	16.0%	48.0%	58.0%	52.0%	0.0%	8.0%
	50 歳～59 歳	64	39.1%	29.7%	25.0%	14.1%	21.9%	43.8%	48.4%	56.3%	0.0%	6.3%
	60 歳～69 歳	74	44.6%	36.5%	21.6%	4.1%	18.9%	39.2%	55.4%	52.7%	4.1%	9.5%
	70 歳以上	71	47.9%	36.6%	18.3%	5.6%	19.7%	39.4%	57.7%	39.4%	0.0%	2.8%
地域別	柏原地域	65	43.1%	38.5%	21.5%	6.2%	24.6%	44.6%	56.9%	50.8%	1.5%	4.6%
	氷上地域	79	36.7%	27.8%	17.7%	12.7%	16.5%	39.2%	55.7%	58.2%	0.0%	11.4%
	青垣地域	66	45.5%	30.3%	27.3%	9.1%	22.7%	40.9%	56.1%	50.0%	3.0%	3.0%
	春日地域	67	47.8%	38.8%	26.9%	7.5%	16.4%	37.3%	59.7%	50.7%	3.0%	4.5%
	山南地域	65	40.0%	27.7%	27.7%	9.2%	16.9%	38.5%	66.2%	44.6%	0.0%	7.7%
	市島地域	54	50.0%	35.2%	22.2%	13.0%	13.0%	31.5%	40.7%	48.1%	1.9%	9.3%

【市民アンケート　問 18】

【竹田まつり（九社まつり）】

【織田まつり　武者行列】

文化的環境を充実させるまちづくりを推進するために必要なこと

文化的環境を充実させるまちづくりを推進するために必要なことをみると、「子ども・若い世代が文化芸術に親しむ機会」が 56.6%で最も多く、次いで「地域の伝統芸能・祭り等の保存や継承」（42.9%）、「歴史的価値のある文化財の保存や活用」（32.8%）となっています。また、「特に必要だと思うことはない」は 5.8%となっています。

文化的環境を充実させるまちづくりを推進するために必要なこと（5つ以内で複数回答）

		有効回答数	ホール・美術館等の文化施設の整備・維持	展覧会・芸術祭等の文化事業の充実	地域の伝統芸能・祭り等の保存や継承	歴史的価値のある文化財の保存や活用	市民・文化団体等の活動	指導者・講師の積極的な活用	子ども・若い世代が文化芸術に親しむ機会	文化芸術に関する情報の提供	国内外との文化芸術交流	高齢者・障がい者・入院患者等が文化芸術に触れやすい環境	2020 年オリンピック・パラリンピック等の広範な動向への対応	その他	特に必要だと思うことはない
全体		396	30.8%	25.3%	42.9%	32.8%	20.5%	19.2%	56.6%	18.4%	8.1%	25.0%	7.3%	2.0%	5.8%
年齢別	18 歳～29 歳	72	29.2%	15.3%	47.2%	29.2%	8.3%	5.6%	56.9%	13.9%	8.5%	19.4%	6.9%	2.8%	8.3%
	30 歳～39 歳	65	35.4%	18.5%	38.5%	26.2%	23.1%	43.1%	73.8%	18.5%	18.5%	21.5%	12.3%	1.5%	4.6%
	40 歳～49 歳	50	26.0%	28.0%	44.0%	30.0%	10.0%	10.0%	62.0%	30.0%	4.0%	26.0%	10.0%	0.0%	6.0%
	50 歳～59 歳	64	34.4%	32.8%	39.1%	34.4%	23.4%	20.3%	51.6%	21.9%	7.8%	21.9%	6.3%	3.1%	7.8%
	60 歳～69 歳	74	28.4%	29.7%	43.2%	37.8%	29.7%	13.5%	55.4%	16.2%	6.8%	27.0%	5.4%	2.7%	5.4%
	70 歳以上	71	31.0%	28.2%	45.1%	38.0%	25.4%	22.5%	42.3%	14.1%	2.8%	33.8%	4.2%	1.4%	2.8%
地域別	柏原地域	65	26.2%	36.9%	41.5%	36.9%	23.1%	13.8%	44.6%	18.5%	3.1%	23.1%	4.6%	6.2%	6.2%
	氷上地域	79	32.9%	20.3%	51.9%	38.0%	20.3%	16.5%	64.6%	13.9%	7.6%	16.5%	3.8%	0.0%	3.8%
	青垣地域	66	31.8%	25.8%	48.5%	36.4%	24.2%	28.8%	54.5%	18.2%	9.1%	27.3%	3.0%	3.0%	3.1%
	春日地域	67	40.3%	25.4%	44.8%	32.8%	16.4%	17.9%	59.7%	16.4%	10.4%	28.4%	7.5%	0.0%	7.5%
	山南地域	65	29.2%	18.5%	40.0%	27.7%	21.5%	18.5%	63.1%	16.9%	4.6%	26.2%	15.4%	0.0%	3.1%
	市島地域	54	22.2%	25.9%	25.9%	22.2%	16.7%	20.4%	50.0%	29.6%	14.8%	31.5%	11.1%	3.7%	9.3%

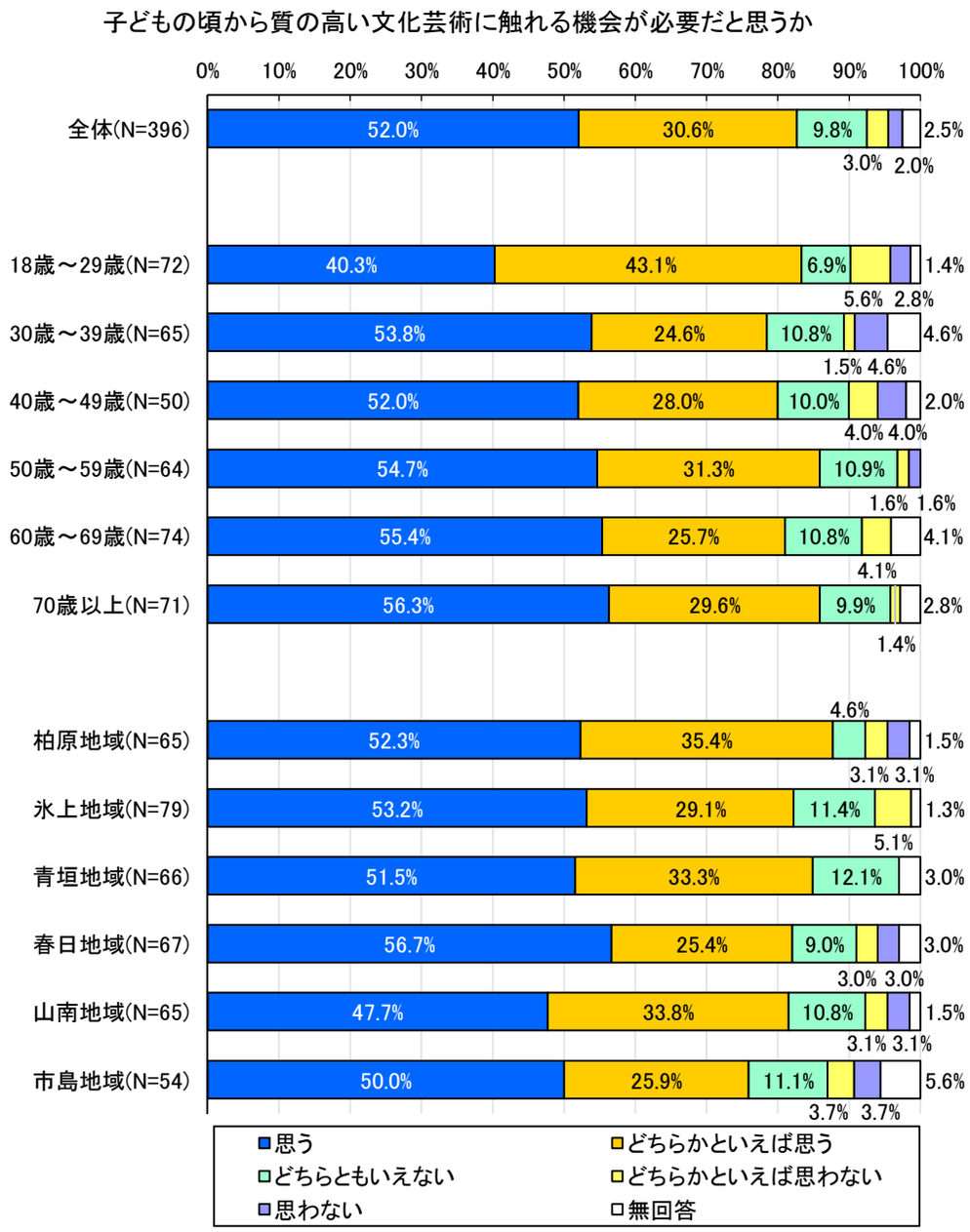
【市民アンケート　問 20】

【親子で楽しむ人形劇】

【ライフピアいちじまアートサロン】

子どもの頃（幼児期）から質の高い文化芸術に触れる機会が必要だと思うか

子どもの頃から質の高い文化芸術に触れる機会が必要だと思うかをみると、「思う」が 52.0％で最も多く、次いで「どちらかといえば思う」（30.6％）、「どちらともいえない」（9.8％）となっています。



【市民アンケート　問 24】

【０歳からのコンサート】

【ライフピアいちじま大ホール】

子どもが文化芸術に親しむために必要な取組

子どもが文化芸術に親しむために必要な取組をみると、「学校における鑑賞体験の充実」が 59.8%で最も多く、次いで「親子や家族で一緒に鑑賞・体験し、感想を話し合える機会の充実」（42.4%）、「地域の文化施設における子ども向けの鑑賞体験の充実」（37.9%）となっています。

子どもが文化芸術に親しむために必要な取組（5つ以内で複数回答）

		有効回答数	学校における鑑賞体験の充実（芸術家による公演等）	学校における創作体験の充実（子どもによる演劇等）	習い事の機会の充実（音楽・舞踊・茶道・華道・書道等）	地域の文化施設における子ども向けの鑑賞体験の充実（ホール・美術館等）	地域での文化行事への参加機会の提供（イベント・芸術祭等）	親子や家族で一緒に鑑賞・体験し、感想を話し合える機会の充実	子ども向けの文化芸術活動の情報提供の充実	文化芸術活動を教える指導者の育成	文化財について学習する機会の充実（歴史的な建物・遺跡等）	地域の伝統文化を体験する機会の提供（伝統芸能・祭り等）	その他	特に必要だと思う取組はない
全体		396	59.8%	36.6%	24.5%	37.9%	34.6%	42.4%	23.5%	13.9%	24.0%	29.5%	1.5%	3.8%
年齢別	18 歳～29 歳	72	61.1%	44.4%	22.2%	34.7%	31.9%	18.1%	20.8%	11.1%	25.0%	36.1%	1.4%	4.2%
	30 歳～39 歳	65	60.0%	50.8%	33.8%	46.2%	33.8%	58.5%	32.3%	16.9%	24.6%	24.6%	0.0%	3.1%
	40 歳～49 歳	50	64.0%	38.0%	22.0%	32.0%	32.0%	38.0%	30.0%	12.0%	12.0%	22.0%	4.0%	6.0%
	50 歳～59 歳	64	65.6%	32.8%	23.4%	43.8%	31.3%	42.2%	21.9%	14.1%	20.3%	18.8%	1.6%	3.1%
	60 歳～69 歳	74	58.1%	27.0%	18.9%	47.3%	32.4%	55.4%	23.0%	16.2%	27.0%	32.4%	0.0%	5.4%
	70 歳以上	71	52.1%	28.2%	26.8%	22.5%	45.1%	42.3%	15.5%	12.7%	31.0%	39.4%	2.8%	1.4%
地域別	柏原地域	65	66.2%	35.4%	21.5%	35.4%	33.8%	47.7%	18.5%	15.4%	27.7%	24.6%	4.6%	3.1%
	氷上地域	79	63.3%	43.0%	21.5%	39.2%	30.4%	38.0%	25.3%	13.9%	29.1%	27.8%	0.0%	1.3%
	青垣地域	66	59.1%	45.5%	25.8%	34.8%	45.5%	48.5%	25.8%	15.2%	22.7%	27.3%	1.5%	1.5%
	春日地域	67	62.7%	35.8%	31.3%	31.3%	37.3%	40.3%	25.4%	16.4%	17.9%	35.8%	0.0%	6.0%
	山南地域	65	52.3%	27.7%	26.2%	46.2%	32.3%	40.0%	24.6%	12.3%	26.2%	33.8%	1.5%	6.2%
	市島地域	54	53.7%	29.6%	20.4%	40.7%	27.8%	40.7%	20.4%	9.3%	18.5%	27.8%	1.9%	5.6%

【市民アンケート　問 26】

【ブラック・ボトム・ブラス・バンド　音楽ワークショップ】

【氷上中学校吹奏楽部】

５年前と比べた活動の状況

５年前と比べた活動の状況をみると、「やや活発になった」「５年前とほぼ変わらない」がともに８件で最も多く、次いで「活発になった」（６件）となっています。

5年前と比べた活動の状況

活動状況	回答数	構成比
活発になった	6	22.2%
やや活発になった	8	29.6%
5年前とほぼ変わらない	8	29.6%
やや活発でなくなった	4	14.8%
活発でなくなった	1	3.7%
無回答	0	0.0%
合　計	27	100.0%

【団体アンケート　問３】

文化芸術活動の問題や課題

文化芸術活動の問題や課題をみると、「活動を支える人材」が 18 件で最も多く、次いで「地域住民の参加」(14 件)、活動費用（９件）となっています。また、「特に課題はない」は２件となっています。

文化芸術活動の問題や課題（複数回答）

文化芸術活動の問題や課題	回答数	構成比
地域住民の参加	14	51.9%
活動を支える人材	18	66.7%
活動費用	9	33.3%
活動拠点がない	7	25.9%
情報の収集・発信	3	11.1%
活動の質の向上	7	25.9%
団体間の交流	1	3.7%
その他	0	0.0%
特に課題はない	2	7.4%
有効回答数	27	100.0%

【団体アンケート　問４】

（２）文化芸術視察研修の実施

1）目的

本計画の策定及び本市の文化芸術の推進にあたり、神戸大学大学院の藤野教授とゼミの学生による文化芸術視察研修を実施しました。研修では、市内の文化芸術活動等を自ら学び、本計画の策定に活かしています。

2）参加者（敬称略）

神戸大学大学院国際文化学研究科教授	藤野一夫（会長）
神戸大学大学院国際文化学研究科１年	３名（稲尾侑紀、川縁芽偉子、前田紗希）
神戸大学国際文化学部４年	３名（土田菜津美、中村優花、山内美侑）
丹波市職員	４名（文化・スポーツ課、文化財課）

3）開催日時

平成 30 年９月 28 日（金）～９月 29 日（土）

4）視察研修実施対象施設等

地域	研修実施対象施設・内容等
山南地域	旧上久下村営上滝発電所記念館、檜皮葺き建造物の維持・保存・継承に係る技術者の養成、鬼こそ、ちーたんの館、川代公園
青垣地域	俳人細見綾子生家、丹波布の技術保存
春日地域	黒井城跡、春日文化ホール、春日歴史民俗資料館
市島地域	白毫寺（太鼓橋・九尺ふじ）、三ッ塚史跡公園、ライフピアいちじま大ホール、文化ホールイベント（バンド・ピアノ・ダンス・和太鼓）
氷上地域	稲畑人形制作技術、水分れ資料館、植野記念美術館
柏原地域	柏原藩陣屋跡・長屋門、田ステ女記念館、大ケヤキ（木の根橋）

5）スケジュール

１日目（平成 30 年９月 28 日）	
10:00～	旧上久下村営上滝発電所記念館見学（村上茂氏）
13:00～	山南ふるさと文化財の森センター見学（檜皮葺き建造物の維持・保存・継承：村上英明氏）
15:30～	香陽館～交流館見学（稲畑人形制作技術：赤井君江氏）
18:00～	夕食交流会・関西大学佐治スタジオ
２日目（平成 30 年９月 29 日）	
8:30～	衣川邸見学（出町　慎氏）
10:00～	丹波布伝承館見学（丹波布の技術保存）
13:00～	白毫寺見学（太鼓橋、九尺ふじ）

6）丹波市を外から見た視点　～文化芸術視察研修のまとめ～

○文化芸術の定義づけ

文化芸術という言葉の定義づけとして、“少し高尚なもの”というイメージを持たれている人が多いと思いますが、私たちは視察研修を通じ、丹波市における文化芸術の定義づけを「生活文化に根差したもの」としました。

○丹波市が持つポテンシャル

丹波市には、歴史や文化財が数多く残っていること、また、公園や施設等も多くあることから、様々な取組や事業を開催することができる“ポテンシャルが非常に高いまち”であると感じました。

地域の歴史がそこに住む人たちの身体に馴染んでいるかどうかといったことも大切です。外部へのアピールよりも、「そこに暮らす人たちのためのもの」という視点をもつ必要があります。

○人づくりとまちづくり

稲畑人形の制作者「赤井先生」のように、教育面でも、稲畑人形を教材として子どもたちに教える等、積極的な活動をされている方が地域で活躍されています。また、檜皮葺きの技術や丹波布の技術育成システム等、かなり活用されていますが、後継者の育成という課題を肌で感じました。

稲畑人形等、小さい頃に自分が暮らす地域について様々なことを感じ取って育った子どもは、その地域に愛着を抱くようになり、成長してからも、その地域と自分はどう関わり生きていくのかを考えることができるようになるのではないかと思います。

○丹波市民のための文化芸術、市民の意識

和太鼓やダンスフェスタ等、市民が様々な文化芸術に関わる機会が多いのですが、活動者自らが自分たちの活動を“文化芸術である”という認識を持ち、活動をされているのかについて、次回の市民意識調査では必要ではないかと感じました。

○人里としての美しさ・色・懐かしさ

丹波市の持つ景色の移り変わりの美しさ、都会にはない景色の懐かしさに私たちは感動しました。丹波の人が地元の良さをどれくらいわかっているのだろうか、発見しているのだろうか。桜や藤、花菖蒲等、季節と共に色が移り変わっていくことを知り、それらは都会にはなかなか無い色で、今後も大切にして欲しいと感じました。

○今後の展開への願い

私たちは視察研修をしたことで、丹波市の文化芸術に関する現状と課題を学ぶことが出来ました。

文化芸術は、人の心を育てるもの。丹波に住む子どもからお年寄りまですべての人が、積極的に文化芸術に携わり、そのことによって、丹波という地域と関わりながら生きていこうとする人が増え、丹波がますます活性化していきます。

真珠が少しずつ育てられてその結晶ができるように、丹波での暮らし、そこで暮らす人への「まごころ」、丹波という地への「まごころ」を文化芸術が育て、将来的に丹波の未来を考え、切り開いていく人を育てていきます。

人々の生活の中での文化芸術というものは、ささやかに、日々の暮らしに寄り添って存在するものであって欲しいと心から願っております。

５．基礎調査等からの課題の抽出

アンケート調査や審議会・庁内検討会議等での意見を踏まえ、本市の文化芸術推進における課題を整理していく中で、本市では大きく分けて、以下の４つの課題があると考えられます。

（１）鑑賞者・体験者に関すること

多様な文化芸術がある本市において、「生活の中での優先順位が低い」「興味・関心がない」ということが課題となっています。さらに、自分の住んでいる地域の文化芸術をあまり知らないということがあるため、市民自らが本市の文化芸術の魅力に気づく必要があります。

（２）活動者に関すること

文化芸術の活動者においては、後継者・人材不足が喫緊の課題となっています。また、人口減少等により、その後継者がますます減少することが予想されます。今後は、文化芸術活動の魅力を発信し、後継者を育成する必要があります。

（３）子どもに関すること

市民アンケート調査の結果では、子どもの頃から質の高い文化芸術に触れる機会が重要と考えており、現状の鑑賞・体験では、不十分であるということが課題となっています。子どもの文化芸術に触れる機会とともに、親子で体験できる機会の充実を図る必要があります。

（４）活用に関すること

本市には伝統芸能・伝統文化・文化財が豊かにありますが、中には保存や継承が不十分なものがあります。今後は、情報発信を充実させ、多くの人に伝統芸能・伝統文化・文化財を知ってもらい、保存や継承のみならず、活用する機運を高める必要があります。